

先生方の献身的な取り組みに敬意を表します。

代表取締役社長 渡辺 能理夫



第39回東書教育賞の各賞を受賞された先生方、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今回も、「東書教育賞」には全国から125編もの多数のご応募をいただきました。昨年、一昨年に比べるとやや減少してはいますが、ご多忙を極める状況にあっても授業研究への情熱を失わない先生方がかくも多くいらっしゃることに、心から敬意を表します。

昨年を振り返りますと、PISA2022の結果が公表され、日本が、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野全てにおいて世界トップレベルに返り咲いたことは、嬉しいニュースでした。今回の結果には、新型コロナウイルス感染症のために休校した期間が他国に比べて短かったことが影響した可能性があるというOECDの指摘がありましたが、そこには「学びを止めない」という先生方の献身的な取り組みがあったことを忘れてはならないと思います。ほかにも、今回の好成績の要因として、新学習指導要領を踏まえた授業改善が進んだこと、また、GIGAスクールによってICT環境の整備が進み、生徒がICT機器の使用に慣れたことなども挙げられています。これらの要因にしても、その背後には、コロナ禍という困難な状況下にあっても続けられた先生方の献身的な取り組みがあったことを忘れてはならず、心から敬意を表します。

一方、こうした献身的な取り組みは、一面では先生方が過酷な状況に置かれていることの裏返しであるということもまた、昨年を通じて広く知られてまいりました。来年度の文部科学省予算の第一の課題としても、「教師等の働き方改革の更なる加速化、処遇改善」が挙げられています。

こうした状況を反映してか、「東書教育賞」においても学校経営に関するご応募が増加傾向にあり、今回も小学校部門で最優秀賞と優秀賞を受賞されました。受賞作の内容については、審査委員の先生のご講評にお譲りいたしますが、「チームとしての学校」やICTを活用した学校改革などが研究主題で、必ずしも「働き方改革」を直接的なテーマとしたご実践ではありませんが、今年、このような受賞作が2点あったということは、ある意味、学校教育の現在の状況を象徴的に示しているのでは、との思いも抱きます。

「東書教育賞」も39回を数え、来年はおかげさまで40周年を迎えます。長く続けておりますと、応募作、受賞作の変遷に、その時々々の教育課題の変遷を見る思いがいたします。そして、その時々々の課題に懸命に取り組まれてきた先生方のお姿が偲ばれます。この「東書教育賞」が、そうした先生方の営みの一端に寄り添えるものであったとしたら、望外の光栄に存じます。

最後になりましたが、ご多用の折に、最終審査をご担当いただきました審査委員の先生方、

一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方をはじめ、ご協力をいただきました多くの先生方に厚く御礼申し上げます。

す。

そして、受賞された先生方の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。